場所　〒502-0812　岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」

第131号
2019年6月

わいわい、がやがや、みんなで哲学

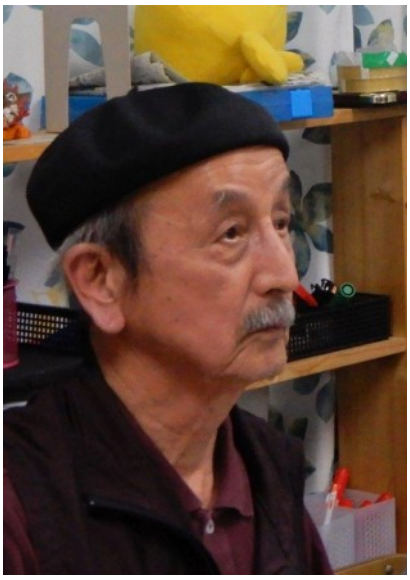
哲学カフェ de ぎふ
千秋（せんしゅう）まちかど文庫　通信

運営委員会発行　（記録:安藤彰浩、編集:吉田千秋・中川健史）　（主宰）吉田千秋　090-7917-9602

《日本の死刑制度はこのままでよいのか？》

オーム真理教事件死刑囚の大量執行に端を発した今回の議論。この問題はいつ議論しても重たい課題であるが、一人ひとりを本当に尊重する社会にする必要があると、強く感じさせられたひとときでした。

問題提起・吉田千秋



＊今回、死刑制度の問題を取り上げる意義を簡単に説明します。昨年7月6日と同26日、二度に分けて一連のオーム真理教事件で死刑判決の確定していた実行犯13人の処刑が一斉に行われました。ちなみにこの死刑執行は、明治末にあった政治的な冤罪事件である大逆事件の際の12人を上回る過去最大規模の死刑執行です。唐突な感じを禁じえないものでした。なぜ、今この時期にという思いを抱いた人も少なくなかったはずです。

＊色々な推測が可能ですが、何よりもこの時期を逃すと死刑執行そのものがやりづらくなるという判断があったようです。今年は、天皇の退位と新天皇の即位があります。来年は世界が注目するオリンピックが東京で開催されます。その後、安倍政権は憲法改正を実行に移す考えでいます。また、国家の慶事である天皇の即位に際しては通常恩赦が行われることになります。政府はオーム事件の死刑囚が恩赦の対象となる状況は避けたかったでしょう。国際社会は全体として死刑という刑罰を非人道的な制度として撤廃する流れにあります。今回の規模の大きい死刑執行は歓迎されませんでした。早速EUを中心に諸外国から批判の声が上がりました。

＊死刑制度は現代のヒューマニズムの精神に合致しません。死刑廃止を国際社会の取り決めにしようと動きも出ています。1980年頃、死刑制度を廃止した国は世界で20カ国余りに過ぎませんでした。現在、106カ国は正式に廃止、事実上死刑を刑罰として使わない国を含めれば、142カ国で死刑は行われなくなっています。2018年時点で、死刑執行が実際に行われた国は僅か20カ国に留まっています。

＊死刑を放棄していない国は約40カ国で、地域的にアジア諸国が際立っています。1000を超える死刑執行が行われている中国の外、300近いイランやサウジアラビアやイラクといった中東諸国が上位に顔を出しています。死刑執行25の米国と並んで15の日本が先進国の中で例外的に名前を連ねています。南北アメリカでは米国を除いて、死刑制度は廃止されていて、アフリカも死刑制度を維持しているのは数カ国だけになっています。アメリカは州によって裁判制度が違っていて、既に3分の1以上の州が死刑制度を廃止していて、今年ワシントン州の最高裁が死刑廃止を決めて、全米で20番目の死刑廃止州になったと伝えられました。

＊イスラム教徒が多数を占めるインドネシアは制度を維持していても、事実上死刑を行わないようになっています。現在、死刑制度の廃止を求める国際条約を作る動きがあって、日本は世界的な趨勢に逆行した状況にあります。但し日本でも死刑廃止を求める人たちが沈黙している訳ではありません。日弁連が2020年までに死刑廃止の実現を目指すことを決議しました。冤罪事件の多発していることが理由として上げられています。

＊参考までに、死刑制度廃止の賛成及び反対の主な論拠を紹介して置きます。廃止賛成の論拠:野蛮で残虐、非人道的である。廃止は国際的な潮流であって、日本の国際的な地位を損なう。死刑は憲法第36条が禁止する残虐な刑罰である。冤罪（誤審の可能性）を絶対的に排除することができない。死刑による犯罪抑制効果は無い。犯人

には生きて被害者ないし遺族に実際に罪の償いをさせるべきである。犯罪者の更生の可能性がある。

*試験存続賛成論:殺人の償いには死刑が相応しい。極悪犯に極刑を持って臨むことが国民一般の法的確信である。最高裁も死刑は合憲であるという判断を示している。誤判が許されないことは、他の刑罰についても当てはまる。死刑は犯罪抑制効果を持つ。被害者及び遺族の心情を考えれば、死刑は必要不可欠。犯罪者の再犯を防止する。極悪犯が更生する保証はない。

*この問題については、まず国民一人ひとりが自分で考えて意見を持つことが重要です。紹介した賛成反対の意見を参考に、それぞれの立場から自由に意見交換しましょう。

意見交流

＊死刑は人を決定的に社会から排除する方法である。覚醒剤に手を出した人たちの様な、小さな過ちをした芸能人などがメディアで人間失格と言わんばかりに徹底的に悪者扱いされる。思いやりの無い社会の排除の論理の最終的な表現が死刑ではないか。

＊世論の多数は死刑制度を支持している。しかし、それはよく考えた結果ではない。大多数にとって犯罪は他人事であって、この問題に関する関心は全体として高く無い。

＊国民は犯罪の被害者になった者に感情移入して、こんなことが身内に起こったら自分はどう考えるかを思い描く。アメリカで、あるリベラル派の政治家が選挙で死刑制度に反対を表明して、インタビューで自分の身内が犠牲になったとしても、死刑には反対と発言したら、嘘臭いと反発があって、多数の選挙民の支持を失って選挙で負けた。死刑執行人の仕事を想像するとぞっとして嫌な気持ちになる。死刑判決の量刑判断の際、しばしば基準とされるのは永山則夫の事件である。言葉に出来ない残虐な殺人を犯した人間だが、彼の前歴、育った家庭環境はどうしようもない悲惨なものだった。背景を考えると情状酌量の余地は十分あった。犯罪の背景には、犯罪者の不幸な過去がある。死刑では無く、終身刑でよいのではないか。

＊死を本当によく知っている人はいない。想像力で補って、しっかり考える必要がある。簡単に死刑を支持する人たちは死刑の意味を十分想像できない人たちではないか。死を想像すると、死刑による犯罪者の死であっても、嫌悪感を覚える。

＊裁判員制度が始まって10年程が立つ。朝日新聞の調査によれば、質問された329人の内125人が死刑が量刑として想定される事件では、裁判員裁判を避けた方がよいと答えている。ここから言えることは、死刑判決の心理的な負担は相当に大きいということである。死刑を多数決で決めるのはおかしい、全会一致か、3分の2以上の賛成が必要とする、という意見もあった。

＊ヨーロッパや南米では死刑制度はない。宗教的な背景と関係している。自分はキリスト教徒カトリック信者である。キリスト教は死刑に対して否定的である。人に人は裁けない。本当に裁くのは神である。冤罪事件の袴田さんは被差別部落出身者で、犠牲となった家庭は乱れていて家族間に問題があった。名張毒葡萄事件の奥西被告は、近隣住民が強く彼の死刑を望んでいた。無理矢理犯人にされた。怪しい判決が多いために、法務大臣が死刑執行のハンコを押さなかった。

＊死刑制度は報復主義に基づいて作られた。バビロニアのハムラビ法典の考えと余り変わらない。時代錯誤の制度。罪を犯したとして捕えられた者は、既に裁きを受ける前から罪人で、人間として扱われなかった。江戸時代は取り調べの際当然の様に拷問を受けた。報復主義は昔から日本人の心情に適っている。主君の無念を晴らす忠臣蔵など仇討物は、日本人の心情に訴える。日本人は死刑それ自体が野蛮であることを考えない。

＊死刑は残虐な制度で、犯罪抑止効果は全然ない。死刑が天皇の退位・即位と連動して、やったりやらなかったりするようなものならば、やらない方がよい。国家権力が国民を死刑にすることを想像するとよい気持ちがしない。

＊中学生の間で「死ね」と言った言葉が、日常において余りに簡単に使われている。神奈川県の老人福祉施設で認知症の老人が生きている価値が無いといって十人近く殺害された。社会制度として死刑を認める様な社会では、人の死が安易に考えられる恐れがある。

＊死刑制度は人を大事にしない社会の産物である。多くの人が、死がどういうものかをしっかり考えていない。法的制度として死刑を認めるべきではない。昔は人を殺さなくてもスパイ行為などは国家に対する裏切りとして極刑に処せられた。国際的な批判を気に掛けて、ちょっと前に法務省内部で死刑制度廃止に関する勉強会が開かれるということがあったらしい。

＊フィンランドでは、極刑に相当する罪を犯した者を島にある刑務所に収容して、社会復帰の為に人間的な生活をさせて更生を図っている。生まれながらの人殺しはいな

い。人間的な温かみの欠けた環境で育つことで、人の心が歪む。罰は自由を失い、外から切り離されることで十分で、刑務所は収容者に惨めな思いをさせて屈辱を与える様な場所であるべきではない。

＊犠牲者の家族の悲しみを強調し、罪を犯す人間を憎悪して厳罰を望む空気がメディアを介して作られている。犯罪を許さないことは当然だが、当事者でない者の憎悪を煽り立てることは問題である。

＊死刑を制度として廃止するよりも、先ず段階的に少なくする様にした方が好い。制度が無くなれば、犯罪が増える可能性もある。

＊死刑制度を廃止したことで、ヨーロッパで犯罪が増えたという話は聞かない。統計を知らないが、死刑に抑止効果は無いと思う。しっかりした研究があれば参考になる。死刑制度を維持しようという立場の人たちは被害者家族の心情に対する配慮を前提に考えている。情に流されずに科学的に考える必要がある。

＊死刑が行われるにしても、執行前に過ちを認め罪を悔い改めて欲しい。

＊教育の現場での経験から、問題を起こした子どもは周りの対応次第で賢くなると言える。死刑は更生の機会を始めから認めない制度である。社会に包容力が欠けている。刑罰は最終的に教育的な制度であることが望ましい。犯罪には常に社会的な背景がある。犯罪を行った者個人に全ての責めを負わせることはできない。

＊死刑を廃止すると選択肢の幅が狭まる。対処法として、残しておいて、実際には使わない様にすることもできる。人間関係が密になり、人間がもっと理解し合って犯罪が減ることに期待したい。

＊死刑制度の廃止には政治の思い切った対応が不可欠。フランスは1980年代初めまで死刑制度を残していた。世論は死刑制度を支持していたが、ミッテラン大統領の思い切った政治判断で死刑制度を廃止した。その後、国民の大多数が明らかに死刑制度の廃止を支持する様になった。現在の安倍政権は、以前の政権に比べ、簡単に死刑執行を行っている。制度廃止の意思を完全に欠いている。

＊宗教は被害者と加害者の心の救済を第一に考える。死刑によって、社会から最終的な形の排除を行うことはできるが、心は救えない。罪人にも色々な人がいて、中には目覚めて他人の為に尽くそうと考える人もいる。質素な生活で知られるウルグアイの大統領ホセ・ムヒカは、元左翼ゲリラで刑務所にいた。安倍氏は罪人を生きながらえさせることにお金を使いたくない様に見える。

＊判断に苦しむ難しい問題である。結論として死刑制度は廃止する方がよい。でも被害者側の心情を考えると難しい選択である。死刑には犯罪抑止力はない。もっと別の社会の対応があるのではないか。

＊オーム真理教の事件関係者の処刑に、仏教もキリスト教も宗教団体は全て反対していた。死刑によって犠牲者が甦る訳ではない。死人の数が増えるだけ。

＊時代と共に死刑そのものも変わって来た。処刑される側が肉体的な苦痛のために過度に苦しむ様な方法を避けるようになった。フランスにあった引き裂き刑はルイ16世によって廃止された。人類は過度に苦痛を与えることを残虐だと考えるようになっていった。

＊人を殺す様な犯罪者の更生が可能は疑問だが、死刑には反対。冤罪の危険を考えなければならない。誤った判断は常に起こり得る。無罪の人間を殺すという死刑によって取り返しのつかない過ちを犯すことになる。法は社会生活の為のルールで、人を活かすためにある。国家が服従を強いて権威を示すためにある訳ではない。死刑廃止は、国家によってないがしろにされてきた主権を、主権者がとり戻すことである。

＊悩ましい問題だが、遺族の思いに配慮するならば、死刑はやむを得ない刑罰だと思う。

＊フランスで日本人留学生の女性が付き合っていたチリ人の男性に殺害されたと思われる事件があった。遺体が見つかっておらず、殺害されたかもまだ明らかになっていない。容疑者が逮捕を逃れるために母国のチリに帰っていて、フランス当局から逮捕状が出ているが、取り調べはチリの警察に委ねられたままである。日本の家族は堪らない心境だと思う。死刑は必要ではないか。

意見交流の最後に

＊今日の発言にもありましたが、たしかに被害者家族の心情を考えると誰も簡単に死刑制度に反対とは言えません。死刑は通常殺人を犯した者に対する刑罰です。人の命を奪う行為は国を問わずどこでもタブーであって、厳罰でもって罰せられるのが普通です。但し例外が認められていて、次の三つのケースにおいては、罪に問われることはありません。一つ目は、正当防衛の様に自らの生命が不当に脅かされた状況、言い換えれば、緊急避難権を行使する場合。二つ目は、死刑制度、国家の司法権の行使として、刑罰によって人の命が奪われる場合。三つ目は、戦争における、武力行使の結果として、人が命を奪われる場合。

＊日本は戦後、日本国憲法の下で、戦争における武力紛争に関わらなかったから、日本人が手を下して戦場で誰かが死ぬというケースはありませんでした。しかし私たちは、その対象が他の人間を殺した罪人であっても、死刑もまた殺人であることを認識しなければなりません。死刑制度の下で、戦後も一貫して相当数の罪人とされた人が合法的に命を奪われてきました。

＊日本国憲法には刑罰を定めた刑事訴訟に関連する条項を多く含んでいます。これは、戦前、国家権力による人権蹂躙を露骨に認めた旧刑事訴訟のあり方に対する反省を反映したものです。憲法学者の中には、憲法は死刑制度を禁止していないと主張する者もいます。日本国憲法の特徴は、戦争をしない事と並んで、個人の権利、人権を国家の根本原理と定めていることにあります。死刑制度は命を大切にする憲法の原理に反するものです。はたして国家が個人の幸福を追求する権利を一人の人間から完全に奪ってしまうことが認められるのでしょうか。この観点からももっと死刑の問題を議論する必要があるでしょう。

＊被害者はもちろん、過ちを犯した加害者も救われる権利があります。これは単なる宗教上の問題ではなく、社会的な問題として捉えられなければなりません。死刑に犯罪抑止力が無いことは明らかです。人を殺す様な凶悪な罪を犯す者は、前もって自分が捕まって下される刑罰に考えをめぐらして、損得を考える様な合理的な思考のできるとは思えません。

＊多数の国民が死刑制度を支持し続ける背景には、代わりとなる刑罰がはっきり示されないことがあります。現在、死刑に次いで重い刑として無期懲役がありますが、これは中身がはっきりしないために、重い刑罰で無い様な印象を与えてしまいがちです。大学は学生に対して無期停学という処分を下すことがあります。しかしこれは、「今は期限を決めない」ということで、数か月後に解除されることもあります。無期懲役には無期停学処分の様に、融通無碍の面があります。死刑制度を廃止した国では終身刑が最も重い刑罰となっています。この制度をしっかり研究する必要があります。

＊ところで私たちは死刑制度がどんなものか知っているでしょうか。刑場で実際に死刑執行を行う役人の仕事を考えたことがあるでしょうか。現場で死を現実のものにしなければならない刑吏の精神的な負担は途方もなく大きなものであることは想像に難くありません。一人に精神的苦痛を負わせない様に、三人の刑吏が同時にボタンを押すようです。現場で死を司る訳ではない者が、悪い奴を処分しろというのは簡単です。死刑の意味を本当に理解するためには、人を殺すプロセスをリアルに考える必要もあるでしょう。

＊そもそも、もの心がついた頃から、自分は悪い人間になろうと思う者などいないはずです。競争原理に貫かれた今の日本社会は、あまりにも安易に人の値打ちを計る様なことをしています。人にはそれぞれが異なる固有の個性を持っています。個性には差異はあっても、上下関係、序列はありません。誰にも障害を持った人を価値の無い存在と判断する権利はありません。死刑囚は罪を犯した人間かもしれません。でも死刑によって人間の価値を全面的に否定してしまうことはできないのではないでしょうか。今後もこの問題をいっしょに考えていかねばならないと思います。

参加者の感想

○千差万別、十人十色、人間は顔が違い、考え方が違うので発展してきたのでhないか。同じ顔をして、同じ考え方であったなら、とっくの昔に滅亡していたのではないかと、今日の例会で感じました。（安永）

○正義的隊場、人道的立場、加害、被害の立場。それによって意見が分かれ、まとまらない問題だと思いました。最後に、人に優劣をつけないという話しが出ましたが、それだと犯罪を裁けなくなるパラドックスが起きそうな気がします。（りょうま）

○試験制度を廃止するとともに事件の背景（犯人の生育歴など）を深く知って考えていくことが大切だという意見はすばらしいと思った。死刑制度で犯人を死刑にし、その残虐な執行を執行者にまかせるのはおかしいと思った。生きることについて皆で考えることが必要だと思った。今回の例会は、自分の考えを深める機会になった。ありがとうございました。（銀歓）

○「死刑制度についてどう考えるか？」と問いかけられて、“To kill him or not to kill him. That's a question.” ふとそんな言葉が浮かんできた。「死刑制度」の賛成論者と反対論者のどちらの主張もみな「一理ある」と思えるので、ことは重大深刻である。大いなる矛盾をどう統一するかが問題。南アの元大統領マンデラの崇高なる理念、元フランス首相のミッテランの死刑廃止哲学、どちらも世界をリードする思考であり、世界的潮流を感じる。

私としては、我が国も、とにかく「恩讐」超えて死刑制度は廃止すべきだと思う。それによって万人が生命の尊さを「本当に」考えるようになると思うからである。（島田幹夫）

○死刑は個人の反社会行為に対して国家が個人に下す一番重い刑かな。この一番重い刑を執行する者・執行される者・被害者・被害者の近親者の対場から今回 のカフェでは死刑の執行に反対の意見を発言された方が多数だったと記憶しております。執行される者の近親者については意見が無かったと思います。現実的な問題は、被害者の近親者・加害者の近親者の経済支援を早急に行う事です。

国家に対しての反社会行為と国民（住民）の間で反社会行為が発生した場合とを、分けて背景を想像する事も重要に思います。反社会行為の予防、人権を大事にする仕組みを見つけたい。予防は排除ではない。

道路の交差てんで重大事故が発生すると信号機が新規設置される場合がよくあります。住民から重大事故の発生を予見して信号機の新規設置を要望しても設置される事はまれだと思います。道路行政は人が大事にされていない。

最近歯の予防は、成人病との関係で周知されるようになりました。反社会行為の予防が個々一人一人かつ社会に利益をもたらす事を客観的に周知できる仕組みも必要だと思います。減点法ではなくて、減点を減らす・増やさない方法。死刑もその仕組みの中でとらえる事が重要だと思います。（行文和平）

○フィリピンではドゥテルテ大統領がかつて廃止された死刑制度を復活させるとともに、少年犯罪に対する刑事罰の年齢を引き下げようとしています。その理由はドラッグの犯罪を減らすための有効な方法だとされ、彼がダバオ市長時代にドラッグに対して厳しい政策をとった結果、その関連犯罪が大幅に減ったという実績が基になっているとの事です。そう教えてくれたフィリピン人に、「子どもがドラッグにまで手を出すのは、貧困からでしょう？」と尋ねると、「それはその通りだ」と、しかし「死刑や厳罰を広げることでドラッグ犯罪が減ることも事実だ」と。はてさて、日本ではドラッグの犯罪は貧困に直結して起こっているわけではないが、厳しく罰することに犯罪抑止力を認める見解は世界的に受け入れられている。が、人権保障と犯罪抑止の両立や受刑者に対する教育力（更生させる力？）について、リアリティーと説得力のある認識が広がる必要があるという事だろうか？（フィリピン・ウォッチャー）

○憲法が国民の国家に対する命令であることと同様に、刑事司法に置いても国家と言う暴力装置の野放図な力の行使を抑制する事が一番大事なことだと、この例会で思いました。そうだとすれば、特に被害者感情をどうするのかとか、色々な問題はありますが死刑制度については廃止することが、優先順位の一番になるのではないかと考えます。ただでさえ、日本の司法は前近代的ですし、最近の事件で言えば、交通事故で十数人死傷させても、上級国民は容疑者扱いされませんしね。（なおと）

○公（合法）的に他人を死に至らしめることができるのは死刑,戦争,正当防衛,尊厳（安楽）死でしょうか。多くは殺人罪に関わる事件です。嘗て「滝川幸辰教授事件」で刑法の考え方が論じられています。当時の死刑は大逆事件でわかるように内乱罪が死刑相当となっていた。因に現在も内乱,外患誘致罪等が死刑のみとなっているようです。これらは,考慮にならないと思いますが,ひどい

ことをしたら死刑も仕方がないという考えに繋がるのでしょうか。殺人等を犯すに至る経緯を明らかにしていくことは必要と感じます。残された人たちの感情をどうするかも含めて,人々がお互いの命,暮らしなどを大切にしあう社会のありようが求められているのではないでしょうか。「戦争」はまさに政府の命令により奨励されるもので,自己の死も厭わなくてはいけないのですが,「最新技術」は遠距離から兵器を操作して自己は安全なまま,生命の感覚を持たない儘,他人の生命を奪うという事態も生じています。「正当防衛」は自己の生命に対する急迫不正な他人に対しての行為ですが,その他人も何らかの異常を生ずる理由があったのだろうと思います。「尊厳(安楽)」は生き方の問題です。哲学,倫理,医学,法律,宗教などの分野の討議を深めたいです。　(野口)

○第1に、意外と「死刑制度を存続する」との意見の少ないのに驚いた。世間では「死刑廃止には反対意見が圧倒的だ」と言われているように聞いているが、それでも、次第に変化しているのかと思って安心した次第です。2.その他に意外だったのは「冤罪が心配だから死刑制度は無くす」との意見が少なかったように感じた。それは、「人間が過ちを絶対になくす」ことは無理で、とっても大事なことだと思う。(原発でも同じことが言えるが、「誤っていた」では済まされないことである。)　3.今回の皆さんの話し合いの中から「死刑制度は世の中を「分断」している一つのキッカケであり」、死刑を廃止すれば、世の中から「分断」の機会が一つ減ることになり、一つ明るさが増すだろう。死刑制度の廃止は「世の中には「分断」は出来るだけ無い方が良い」ということを、世の中に広く知らしめるキッカケにすることになると思う。今回の結論として、民意の傾向も大事であるが、仏国のように、指導者が勇気を持っ「死刑廃止」に誘導してくれることを望む。我々が、そのような指導者を選ぶ時期に早くは入るように努力を続けることの重要性を再認識した。　(井口)

○被害者遺族の立場に立てば、到底許されざることであるだろう。しかし、命をもって償われても結果、それで亡くなった人が返ってくるわけではないから欠落感のみに苛まれるに違いない。では、制度としてはどうあったらいいのだろうか。罪を犯した者が、犯した罪の深さを認識して、心から悔い改めること。それしかないように思う。命は命でもって贖うべきで、死刑になるべき人を生かしておいては結局税金の無駄使いだという人がいる。確かにそうかもしれない。人の命を奪うような罪を犯せば、死刑になる。それは抑止となるだろうか。命の危うさ、尊さ、かけがえのなさを加害者が知らずに、それまで育ってきたとしたらそれこそ、その人間の不幸だとは言えないだろうか。亡くなった人の不幸と共に。人間が人間を裁くことの不条理さ。究極「悔い改める」それにつきると思う。そのためには、どうすればいいのかを考えたい。死刑制度は社会にどんな教訓を残すというのだろうか。親鸞のいう「善人なおもて往生とぐ。いわんや悪人をや」を思い出した。　(ひらつか)

○5月例会では私の思っていることを言うことができた。感想を書くにあたってメモや資料を読みとおすと、おばさんが感じ思うことを参加者の皆さんの意見によって、よりリアルにより理論的に高めていただいたと実感。とどめは千秋さんのまとめ。哲学カフェという場の価値を存分に輝やかせた例会であった。みんな！すてきだよー!! 「無知の涙」気になっていた本、読んでみよう。「恵那の教育」・・・最近、友人が大関松三郎の詩「山芋」を贈ってくれた。戦前に生活綴り方教育を実践された寒川道夫の教え子の詩だ。生活綴り方運動が大切にしたものを、私の地域生活に貫くという課題をもらった。ありがとう。　(尚子)

＜たよりいろいろ＞

○通信にイタンキ浜の写真入りで、掲載してくださり、有難うございます。自分の心の憤りを、持っていくところが無く、掲載していただいたことで、救われました。白骨死体の人々も成仏できます。

今回のテーマ、『若者が希望を持てる社会にするには？』も面白く、読ませていただきました。私も、子どもたちも社会に育ててもらっていますが、社会にその余裕がないと、息苦しいですね。

今日息子と、慰安婦問題を扱った『主戦場』という映画を観てきました。いろいろな立場の人々が、「慰安婦は、性奴隷だったのか？」「強制連行されたのか？」など証言しています。

その中で、わたしに、見えてきたものは、政治が歴史をつくりかえようとしている。聞こうと思わないと、慰安婦像の声は、聞こえない。知らないで、済まされる責任は、無い、ということでした。死んだ人の声も、聞いていきたい。

二度無駄死にさせないためにも。

(かこちゃん)

この一冊

デイビッド・モントゴメリー『土・牛・微生物――文明の衰退を食い止める土の話』
築地書館発行、2018年

バッファローたちが草原の草をはみ移動する、その豊かな大地を。インディアンを殺し大規模所有した白人たちが同じ移民である小作人をつかって、大地を耕しすき込み・・・表土を流出させダストボールをおこす。土地所有者はより生産性をあげるために、機械を導入し、小作人をおいだした。

第2次世界大戦後は「緑の革命」と呼ばれる農法になっていく。伝統農法を否定し、穀物の多収穫品種を購入し，灌漑（かんがい），肥料，農薬，農業機械がセットとなって成り立ち、急激な食糧増産がはかられた。その一方で、新品種は多量の水や化学肥料、農薬を必要とし、農地の砂漠化や河川の農薬汚染などをおこした。その挙句、「遺伝子組み換え作物の種子＋除草剤」セットの農法になっていく。土壌はもっと荒廃していく。種子の自家採取は禁止され、農家は巨大アグリビジネスに隷属させられていく。

この本は、それに対するアンチテーゼの農法、すなわち農業が持続可能で農民が富み、温暖化対策になる農法を紹介している。アメリカ全土、アフリカ、ブラジルを取材し、土壌生物と共生する農業を紹介する。そこには共通する3原則があり、不耕起栽培、畝を緑肥で覆う、多様な作物の輪作という。ほんまかいなと驚愕するが、次々に紹介される実践を読むにつれ、そうかなあという気になる。『土の文明史』『土と内臓』」という前作の完結編である。

これを読んで『怒りのぶどう』を読まなくちゃと、読み始める。つらいものだった。産業資本主義に突入した社会で、働く場を求めて西部に大移動する農民のくらしは吐き気をもよおすものだった。こういう悲惨な暮らしが現代の環境移民と呼ばれる人々におきているのかと、うなされながら読み終えた。

（佐藤尚子）

哲学カフェ de ぎふ シンポジウム

人口減少化社会をどうとらえ、どう備えるのか？

哲学カフェ11周年記念シンポジウムが近づきました。5月23日には、中川と吉田が飛騨市役所の都竹市長を訪問し、ご挨拶と打ち合わせを行ってきました。一人でも多くの方をお誘いいただいて、この問題について意見交換を行いたいと願っています。

2019 6/16（日）

開場 13:00
開会 13:30
終演 16:00

資料代５００円(若者は無料)

ハートフルスクエアG 大研修室

ＪＲ岐阜駅の高架下の建物です。
（駅構内から２Ｆ連絡通路で通じています）

2019年前半 哲学カフェ、第22期の予定

場所 岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」

例会は19:00～21:00です。

第127回例会 1月10日(木)	「激動の世界、新年の展望を語る」(＝新年会も) ＊昨年に続いて、今年も激動する世界・日本、これにどう向き合うのか。 ＊平穏無事に行きそうもない中、飲食物を持ちより、真剣かつ楽しく語り合う場に。 ⇒開始時間を6:30にします。酒類はなし。よろしく参集願います。 終了しました
第128回例会 2月14日(木)	「消費税アップは当然？ キャッシュレスで税還元？」 ＊10%へのアップは決まっている、あとは軽減をどうするか、でいいのか？ ＊カード利用で還元も、とはどういうものか。税収構造にも切り込まなくては？ 終了しました
第129回例会 3月14日(木)	「どうすれば韓国・北朝鮮と仲良くなれるのか？」 ＊圧力一辺倒の対北朝鮮。あらたに生じた徴用工問題などでの韓国との軋轢。 ＊どうしたら打開し仲良くできるのか、朝鮮観の根本的な転換が必要なのでは？ 終了しました
第130回例会 4月11日(木)	「若者が希望をもてる日本社会にするには？」 ＊近年、どのような課題を解こうとも、ネックになっているのが若者支援問題。 ＊教育、労働、社会・政治参加など、様々な分野での根本的施策が求められている。 終了しました
第131回例会 5月9日(木)	「日本の死刑制度はこのままでよいのか？」 ＊オーム真理教死刑囚の大量執行で再び問題化されてきた日本の死刑制度。 ＊裁判員制度の下での死刑判断の過酷さなど、あらためて根底から問い直す。 終了しました
第132回例会 6月16日(日)	創立11周年記念行事 ハートフルスクエアG 大研修室 13:30～ シンポジウム「人口減少化社会にどう備えるのか？」 ＊これに取り組んでいる岐阜県飛騨市長と、若者支援に力を注ぐNPO代表を招いて意見交流する。
第133回例会 7月11日(木)	「人口知能(AI)の進展は人間に何をもたらすのか？」 ＊通信、情報、労働のみならず、囲碁やスポーツの分野まで急速に進展するAI。 ＊いずれ人間の知能を超えるかもしれないとされるが、はたしてその行く末は？

哲学カフェの運営資金の協力 も、よろしくお願いします。 口座記号・口座番号 00810 1 142912
加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫
「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !! http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/
または「哲学カフェ岐阜」で検索

わいわいがやがや アラカルト

★この人は何のために来たのでしょうか‥トランプ大統領です。ゴルフ、大相撲見学、焼き鳥居酒屋、新天皇謁見第一号などなど。でも本命は、到着日の夜に行われた経済界要人との会食と、最終日の安倍首相との「会談」だろう。

★お互い世界中で唯一の「友人」。首相は改元・代替わり時点を最大限利用して得点稼ぎをし、選挙を有利に進めようとする。そのために大統領にこびへつらってご機嫌を伺う。大統領はそのつけを貿易交渉・爆買いで払わせようとする。

★透けて見える分かりやすい構図であり、国民の多くも感づいていると思われる。それにしても、これほどまでに従属的・売国的な首相と、それを強いる大統領に対して批判し、「トランプ帰れ」の声が届いてこないのはどういうことか。

★アメリカが行った核兵器の未臨界実験に抗議した被爆者団体協議会の声や、新「空母」に改修される護衛艦「かが」への二人の乗艦に抗議する姿もあったが、報道されない。マスコミの政権への「忖度」ぶりはかなりなものである。

★こうした状況下で、またもや安倍政権は衆参同時選挙の策略も進めている。これに対して野党は、5月末、一人区すべてで統一候補を立てることで合意した。「これで日本は正気に戻れる」と語った人もいる。そうなるように力を合わせよう。

（吉田千秋）